

フライフィッシング専用区の漁場実態調査

福島県内水面水産試験場 調査部
平成16年度事業報告書

1 部門名

水産業－内水面(増養殖)－溪流、イワナ、ヤマメ
分類コード 19-08-24606100

2 担当者

佐久間徹・廣瀬 充

3 要旨

キャッチアンドリリースは、ヤマメ、イワナを用いた飼育池での釣獲試験の結果、再放流後の生残率が高いことが示されたことから、河川においても、多くの魚が生残することが期待される漁場管理方法である。そこで、実際に管理されている水無川について漁場実態調査を行った。

(1) 漁場調査

水無川のフライフィッシング専用区(以下、FF区)の中に2ヶ所と、FF区外の上流、下流に1ヶ所ずつ調査地点を設定し、各調査区間において、2名による潜水目視調査により魚類の種類と尾数、大きさの確認を行った。調査は7月30日、10月15日の2回実施した。

確認した魚種は、ヤマメ、イワナ、ニジマス、ウグイ、アブラハヤ、カジカの6魚種であった。

全長15cm以上の尾数について、7月と10月を比較すると、放流場所である地点3では、ヤマメ、ニジマスは半減、イワナは3割以下に減少した。しかし、他の地点よりは多い尾数であった。

(2) 漁場管理状況調査

平成16年の放流状況及び、FF区を設定した平成13年から16年までの遊漁者数について調査を行った。

4月1日の解禁に向けて、3月中旬にヤマメ、イワナの成魚が50kgずつ放流され、4月にはヤマメ、イワナに加えてニジマス成魚が100kgずつ放流された。放流場所は地点3のみであった。

組合員の遊漁者は年間600人前後、年券の遊漁者数は90人前後であった。日釣り券の遊漁者数は600人前後であったものが、16年には958人となり、FF区を設定してから最高の人数となった。年券の売り上げは安定しており、組合員、日釣り券の遊漁者数が増加していることから、FF区の設定が定着してきていると考えられる。

4 その他の資料等

なし